

普及現地情報
令和3年12月13日
一関農業改良普及センター
記述者 及川 美佳

産地の課題解決へ ～ナス果実小陥没症～

JA いわて平泉なす生産部会は、12月1日の全体研修会において、岩手県農業研究センター岩館康哉主査専門研究員から、「ナス果実小陥没症の防除対策」について学びました。

一関地域では、平成20年頃からナスの果実に原因不明のボツボツ（小陥没）症状が発生し、この原因究明に向け、岩館氏は普及センター職員とともに、現地調査や試験研究活動を熱心に行っていました。

その結果、果実小陥没症の発生原因が解明され、発生時期や重点防除時期が明らかとなりました。また、有効薬剤の探索や登録が進んだことで、課題解決への道筋がつけました。

果実小陥没症多発年は、収穫果実の7割以上を廃棄していたものが、この成果を踏まえた防除対策の実践により発生が抑えられ、収量向上につながっています。

部会では、産地の課題解決に貢献した岩館氏に対し感謝状を贈り、感謝の意を表しました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、産地の課題解決を支援していきます。



ナス果実小陥没症の研究
成果紹介



千葉昭義部会長より感謝
状の贈呈